慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	『日本政治外交研究』第七号の刊行にあたって
Sub Title	
Author	清水, 唯一朗(Shimizu, Yuichiro)
Publisher	慶應義塾大学湘南藤沢学会
Publication year	2013
Jtitle	日本政治外交研究 No.7 (2013.)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	慶應義塾大学日本政治外交研究会
Genre	Technical Report
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO92001005-00000007--002

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

『日本政治外交研究』第七号の刊行にあたって

慶應義塾大学総合政策学部　清水 唯一朗

『日本政治外交研究』も七号を数えることとなった。本研究会を支援してくださるみなさまにあらためて感謝を申しあげたい。

七年目となる日本政治外交研究会には、一八名が参加した。院生の三谷君、大西君、小野田君に加え、卒業生の平井君、藤平君が研究員として議論の深化に大きく貢献してくれた。今年度は社会人セッションに力点を置き、厚労省、朝日新聞社、ハーバード大学日本事務所、外務省、ＮＰＯ法人の方にお越し頂き、豊富な対話を行うことができた。三年ぶりとなった東京大学菅原ゼミとの合同研究会では、ネット選挙を論題に多面的な討論がなされた。

今年は四本の卒業論文に加えて、二本の優秀タームペーパーを収録した。山内論文は、政策転換という大きな問題を防衛費問題を事例にクリアカットして見せた。吉本論文は、コロンビアにおけるテロ組織の強靭さを現地資料の精読によって明らかにした。玉利論文は昨今注目を集める日韓関係の悪化を議員連盟の消長という切り口で解き出し、浜田論文は政権交代に際しての大きな争点となった政策の統合について明晰な議論を展開した。井上論文は自らが体験したゆとり教育の策定過程を委員会審議に注目して論じ、越村論文は公共への参加を長野県小布施町を事例に丹念に観察した。

今年度の研究の特色は、あくなきリサーチの上になり立っていることであろう。一次資料やインタビュー、フィールドワークなど、決してアプローチが容易でない「現場」に当たり前に飛び込んでこれを捉えようとしたことが、それぞれの研究の精度を大きく上げている。このことはＪＰＤ（Japanese Political Development）の成果として大きく誇るべきことであろう。研究会が培ってきた文化がひとつの完成形に到達したことを嬉しく思う。

来年度は私の在外研究のため、卒業論文もタームペーパーも書かれることがない。研究会の諸君に迷惑をかけることが忍びないが、一年後、一皮も二皮もむけたメンバーに会えることを楽しみにしている。

二〇一四年三月一四日